




第1章  
はじまり

A man with a beard and glasses, wearing a dark suit and tie, is seated in an ornate chair, reading a large, open book. He is in a library or study with bookshelves filled with books in the background. The scene is lit with warm, golden light from a window behind him. A large speech bubble is positioned in the upper left, and a smaller one is in the lower left.

この物語は何千年  
も前の古い本に書かれている。  
今から話すことは、信じがたい事  
柄もあるかもしれないが、  
すべて事実なのだ。

まさに事実は小  
説より奇なり…  
なのである。





全てが始まる前、  
最初の人類が創造される  
より以前、地球や太陽や星たち、  
光や時間というものでさえも  
まだ造られていないころ、  
すでに神は存在されていた。



とは言え、神はご自身の命の歩みを分かち合うことの出来る隣人や友が欲しかった。


起源の始まりというものを超えたところに神は存在されていたが、神は孤独ではなかった。限りのある人間とは違い、神は三位一体として存在されている。それぞれの御各位が別格で同等、それでいて、自然界においても権力においても行動や意思においても、唯一のお方として永遠に存在するのである。神は慈愛に満ちた三位一体のご自身と語り合っておられた。





聖書\*は、王座に座しておられる神を永遠にあがめ賛美する、多くの天の御使いたちの存在についても語っている。その中の一人であるルシファーは、天の軍勢の三分の一をそそのかして反逆を企てた。神は彼らを天国から追放し、ルシファーの名前はサタンとなった。





しかし、これは彼らの物語ではない。

人類とともに在って働かれる神の物語なのである。

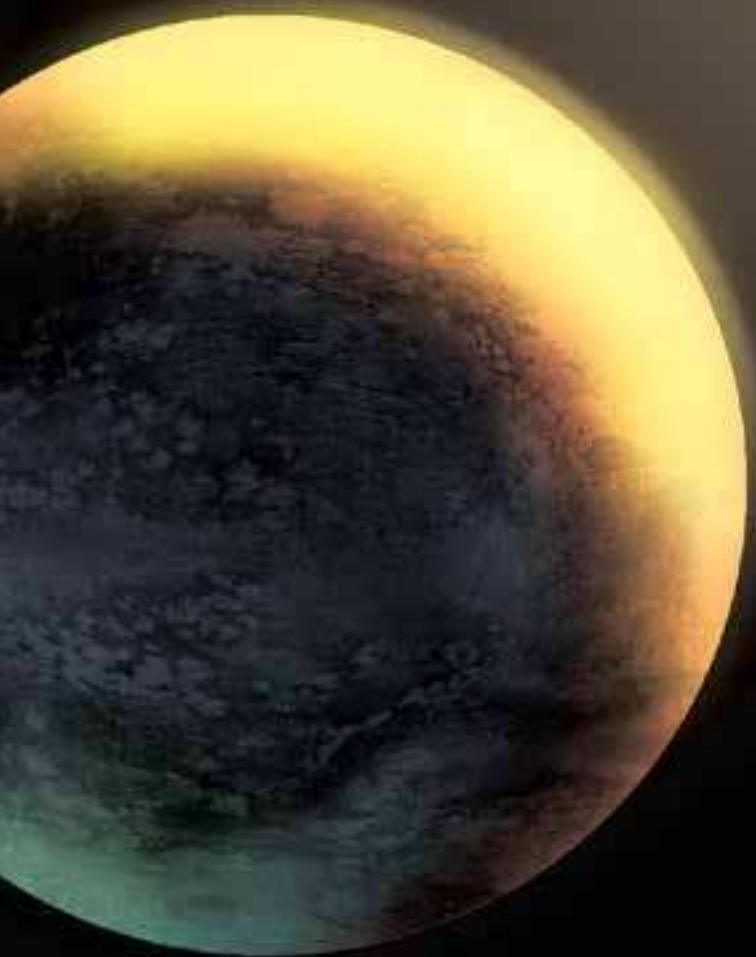
イザヤ45:18。サタンについては、イザヤ書14:12-14、エゼキエル書28:13-19、マタイ25:41、ルカ10:18、ヨハネの黙示録12:4、20:2を参照してください

初めに、神が天と地を創造した。  
地は茫漠として何もなく、  
神の霊が水の上を動いていた。

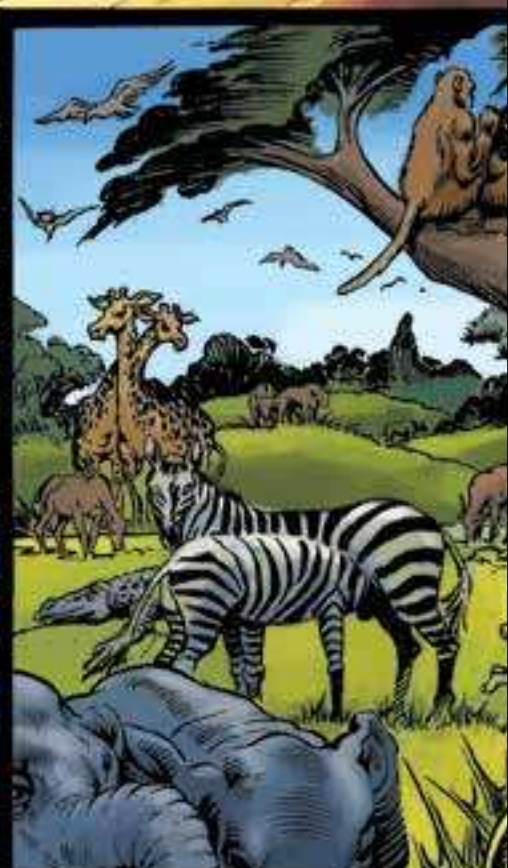


突然、神は闇に向かって  
仰せられた...。

光、あれ。







現代の多くの人々が天地創造の在り方について思う形と違い、創り主なるお方は、「進化」というのを用いることはなさらなかった。神は、単に言葉を発することによって全て  
のものを造られたのだ。一日を二十四時間とした六日間を通して、神は植物や動物達を地上に繁栄させられた。

紀元前約4004年(創世記1:2-3)



六日目に、神は土地のちりから  
新しい生き物を創造された。



神は土地のちりから人を造られた。  
そしてその土の器に、神ご自身の命の  
息吹を吹き込まれた。人はその他の  
動物たちとは異なり、生きる魂の霊を  
授かった。人は神の似姿に創造された。



神はこの新しい創造物を人類とし、アダムと名付けた。

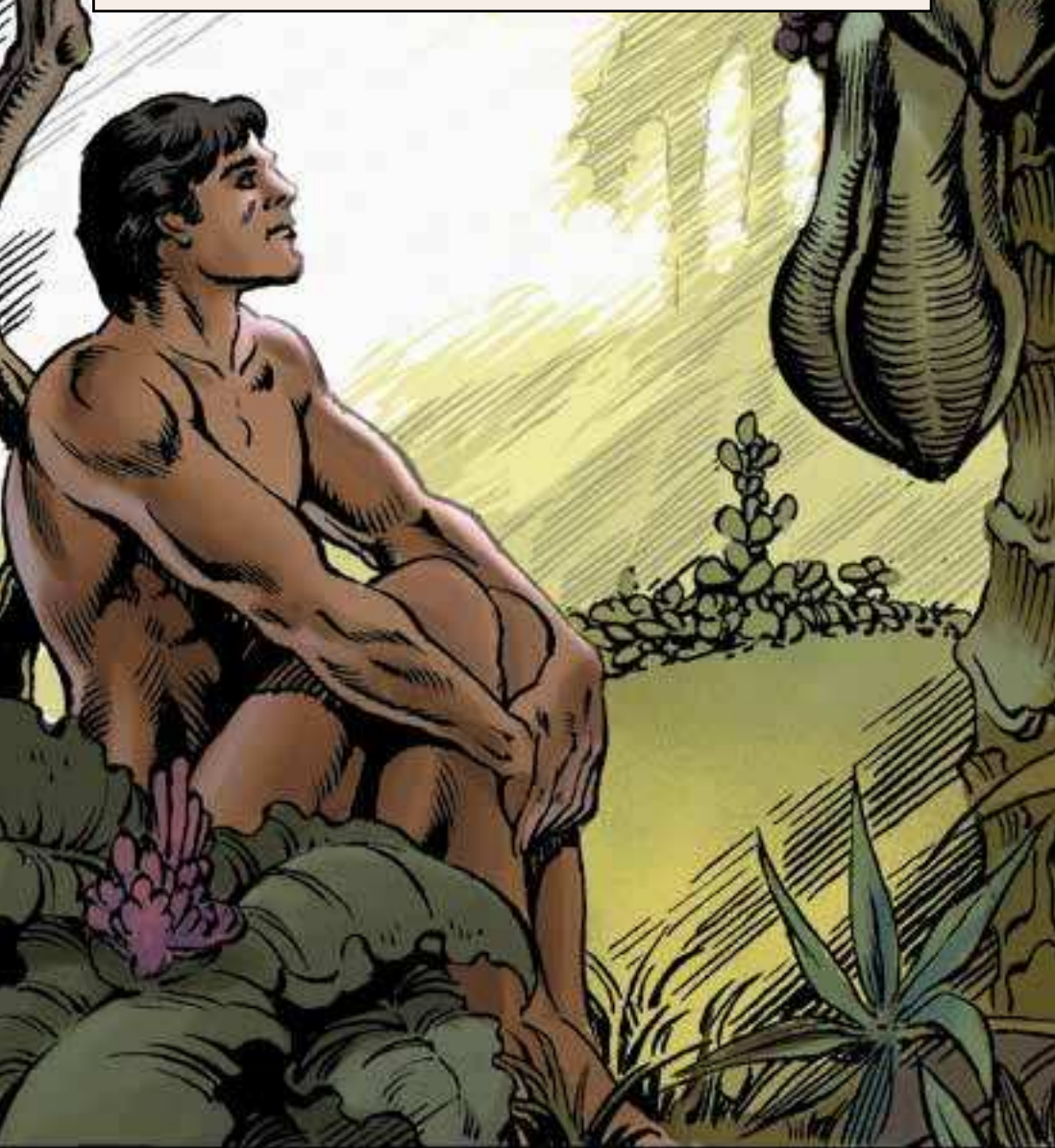


神はお造りになったすべてのものを見られ、「非常に良い。」と仰せられた。

創世記1:31、2:7



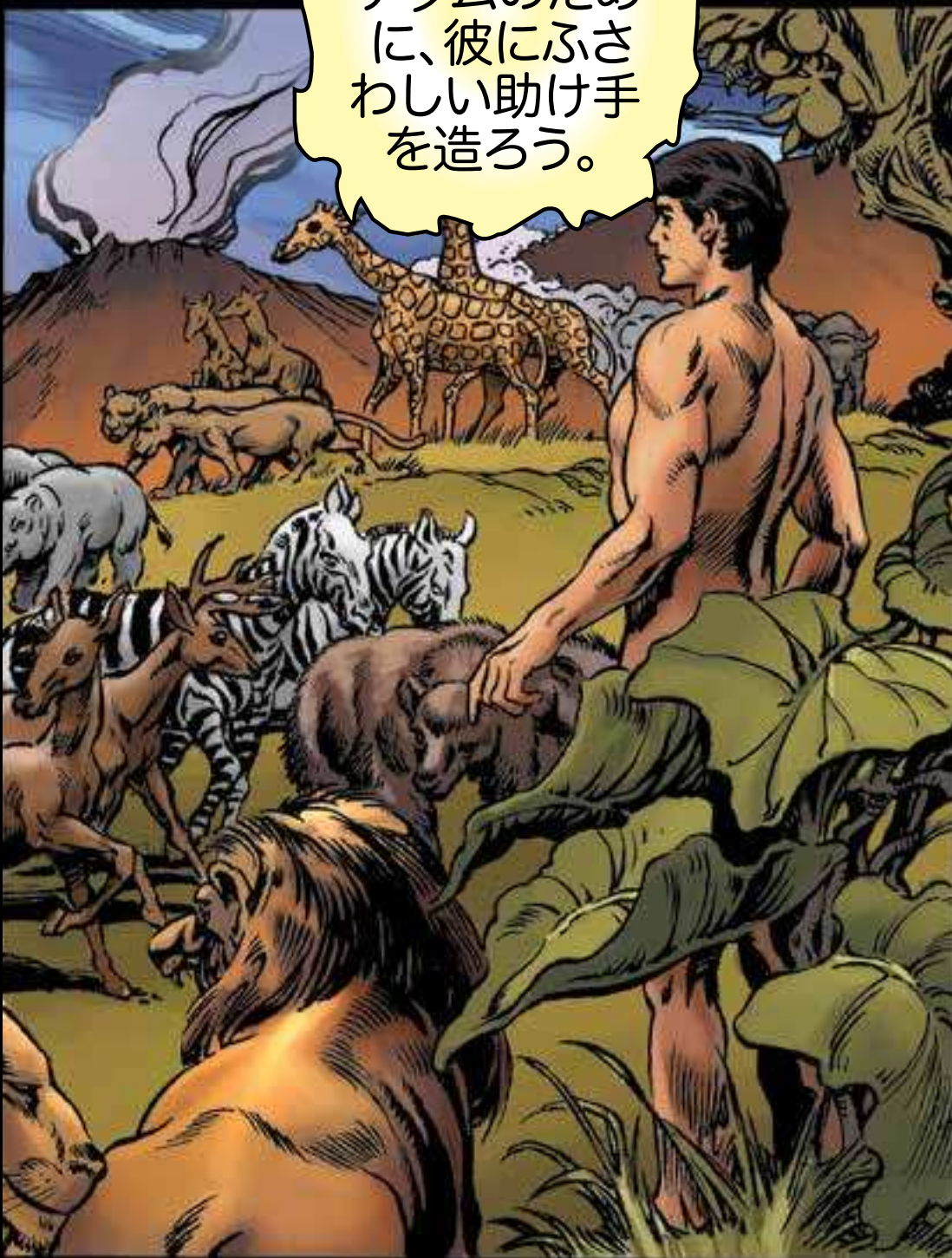
神は毎日アダムと語られ、  
日々は素晴らしいものだ  
った。アダムがそれぞれに名  
前を付けることが出来るよう  
にと、神は全ての動物達を  
アダムのもとへ連れてこられ  
た。目の前を行く動物達を眺  
めながら、アダムは自分に彼  
らのようにパートナーがいな  
いことに気がついた。





そこで神は  
仰せられた。

わたしは  
アダムのため  
に、彼にふさ  
わしい助け手  
を造ろう。



神はアダムを深い眠りへと導き、彼の脇腹からあばら骨を取ると、その骨から彼の愛する助け手となる美しい女を創造された。

神はアダムを目覚めさせ、その女をアダムのもとに連れてこられた。神は二人に、子供を持ち、地上を満たすようにと告げられた。アダムは新しく創造されたその美しい妻を、エバと名付けた。

私の骨からの骨、私の肉からの肉。

その様子を邪悪なサタンも見届けていた。



彼らは二人とも裸であった。しかし、子供のようにそのことを意識していなかった。




彼らは楽園で幸せに暮らしていた。罪もなく、飢えもなく、厳しい寒さや暑さもなかった。

神は木々を指して語られた。


あなたは、楽園のどの木からも思いのまま食べてよい。しかしこの善悪の知識の木からは取って食べてはならない。それを取って食べる時、あなたは必ず死ぬ。

サタンは神を憎んでいたので、神のなされている全てを壊したかった。そこで、彼はエバに近づくために、美しく造られた生き物のひとつの身体に入り込むと、その口を通して彼女に話しかけた。



神はおまえに、  
この楽園のどんな木から  
も食べてはならない  
と言ったのかい？





神様は楽園の木の  
実を食べてもよいとおっ  
しゃいました。でも園の中央に  
ある一本の木の実は食べてはな  
らない、と。それに触れると  
死んでしまうと仰せに  
なりました。


ふん、死ぬものか！  
その木の実を食べたら  
おまえも我々のような  
知恵が授かって神々のよ  
うになれる。善悪の知識  
が得られるんだ。





目に美しく、食べるのに良く、そして私を賢くしてくれる。でも神様はこの実を食べてはならないとおっしゃった。

エバは善悪というものを知らなかった。



エバは神に逆らい、  
その実を取って食べた。

そそのかされたと気づいた時には  
時すでに遅し。善悪の区別を  
知るどころか、彼女は悪に  
支配されてしまった。



エバは実をもぎ取ると、  
夫にも食べるよう勧めた。



ほら、私は食  
べたのに死んでいないわ。  
あなたも食べると、きっ  
と賢者のように  
なれるわ。



彼らは、自分たちが  
何一つ身にまわって  
いないことを  
恥じた。

はっはっはっ、  
お前たちは殺されるぞ。奴が  
わが身にしたことを見る。






私たちは  
何という  
ことを!

我々は神に背いて  
しまった。  
すぐに、神は  
やって来られる。  
とにかく、身に何か  
をまとうのだ。






アダム、  
どこだ？

私はあなた  
のお声を聞きました。私は裸な  
ので、恐れて、  
隠れました。


あなたが裸であ  
るのを、だれがあなた  
に教えたのか。あなたは、  
食べてはならない、  
と命じておいた木か  
ら食べたのか。



あなたが私の  
そばに置かれたこの  
女が、そうしろと  
言ったんです。

創世記3:6-12  
きたのか尋ねられ、エバは答えた。

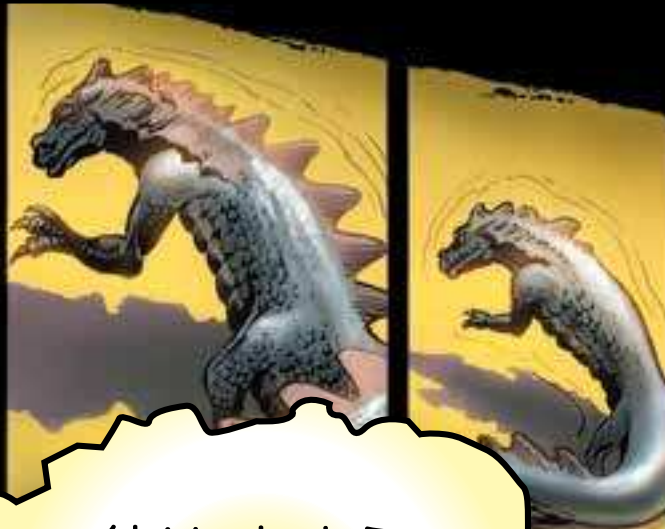




シューツ

蛇が私を惑わしたの  
です。食べても死なないと。  
食べたならあなたのようになれる  
のだと。でもそうではなかった。  
私はなんと恐れ多いことをして  
しまったのでしょうか。

神は、その蛇  
を呪ってこう  
仰せられた。



彼は、おまえ  
の頭を踏み砕き、  
おまえは、彼のかか  
とにかみつく。



おまえがこんな事  
をしたので、おまえ  
は一生腹ばいで歩き、  
ちりを食べなければなら  
ない。わたしは、おまえ  
の子孫と女の子孫と  
の間に敵意を置く。






ここに、将来起こる戦いに向けての約束がある。時が来たら、女の子孫がサタンを倒す、という約束だ。彼が人類をその罪と死の呪いから救い出し、神の御元へと連れ帰ってくださるという約束だ。



神はルシファーとその墮落した天使達を一瞬のうちにその場で滅ぼすこともお出来になられた。しかしあえてそうせず、人類の試みに彼らを用いるために、しばらくの間生かしておくことにしたのだ。はたして人間達は、神に従うことを選ぶのか。もしくは、サタンに従い、神に反抗することを選ぶのだろうか。

創世記3:13-15




神は人類を呪い、  
こう仰せられた。

あなたが、妻の声に聞き従い、わたしに逆らって食べてはならないとわたしが命じておいた木から食べたので、土地は、あなたのゆえに呪われてしまった。土地は、あなたのために、野菜よりもいばらとあざみを生えさせる。あなたは、ひたいに汗して働き糧を得る。生きる限り悲しみが伴い、死んで土に帰るその日まで、必死に働き労働し続けなければならない。



神が仰せられたように、アダムとエバは死ななければならなかった。しかし神は、二人の代わりに動物をほふられ、その皮を用いて二人のために衣を作り、彼らに着せてくださった。





神は私たちの  
命をお取りにならな  
かった！私たちは  
まだ生きています！

私たちの代わりに  
動物が殺され  
たのね。

アダムとエバは、罪のない動物達の  
命と引き換えに、この日生き残った。  
しかし、死の宣告は下っていたので、  
いずれは彼らも死ぬ運命にあった。  
死は、罪の報酬なのである。



アダムとエバは罪人となった。  
神は二人が命の木の實をとって  
食べ、罪人として永遠に  
生き続けることがないように、彼らを  
その美しい楽園から追放された。



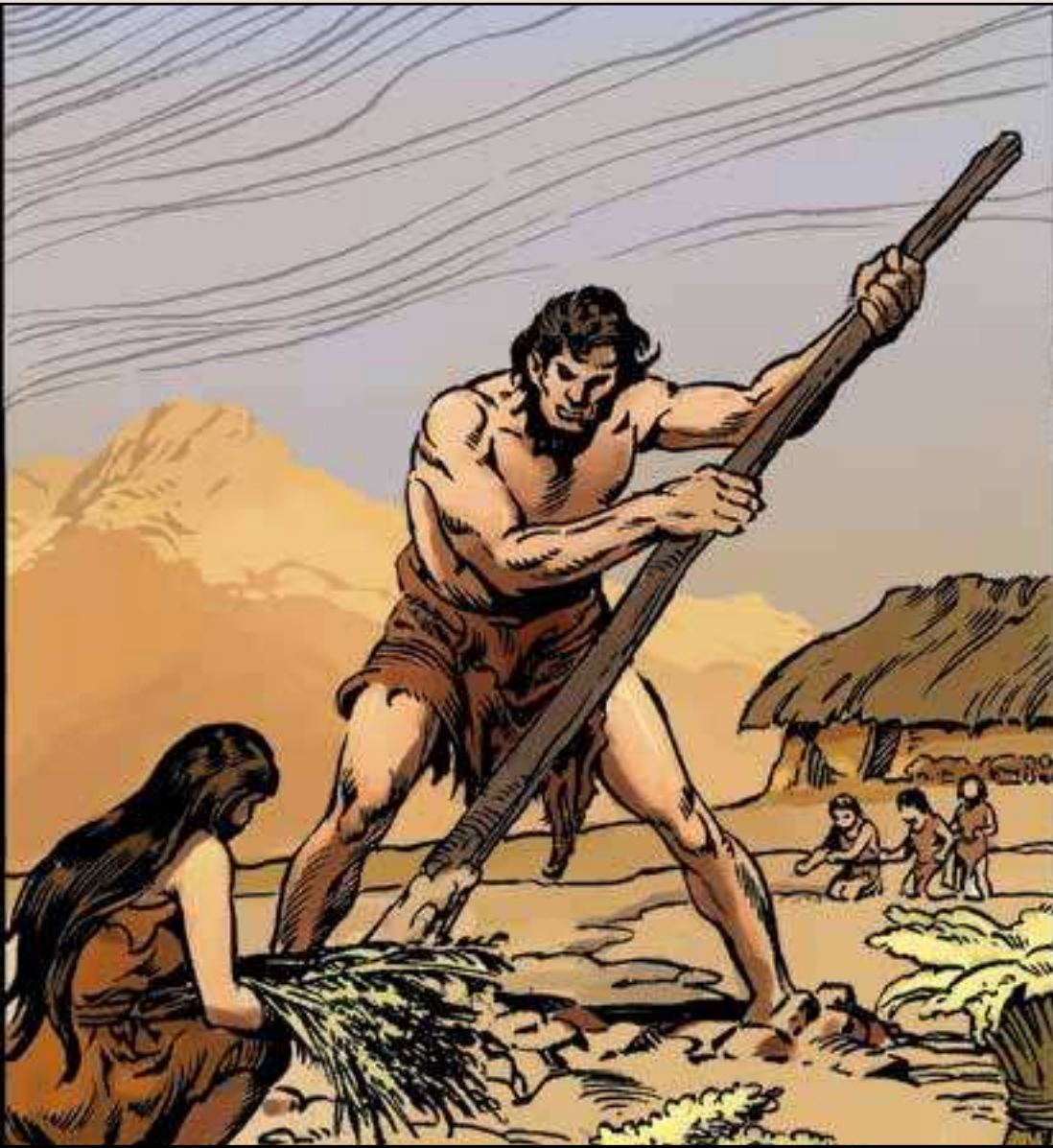


神は、誰も命の木に近づくことがないようにと、楽園の入り口にケルビムと呼ばれる特別な天使を配置された。後に、楽園は破壊され命の木も地上から取り去られた。いつの日か、それらは再び地上に戻されるのだが、その前にこの話の続きを進めなければならない。

創世記3:17-24、エゼキエル18:4



アダムとエバは多くの子供に恵まれた。しばらくして、彼らの息子達と娘達は互いに結ばれ、それぞれに子供が授かっていった。



最初に人類が造られたころ、近親交配による遺伝子の突然変異がもたらす欠陥などはまだ発生していなかった。しかし、後にそれらが問題になってきたので、神は近親者同士による結婚はするべきではない、と命じられた。

アダムとエバの長男である  
カインは野菜や果物を育て、  
次男のアベルは動物を飼育した。  
はたしてこの二人のうちのどち  
らかが、サタンを打ち負かす約  
束の息子となるのだろうか？



カインとアベルは、神や楽園で  
起こった出来事について知ってい  
た。しかし神はもはや、かつての  
ように人間と共に歩んだり語らう  
ことはなさらなかった。アダムと  
その子孫は、アダムの犯した不  
従順の罪によって、神から引き離  
されてしまったのだ。神のいない  
人生はとても辛いものだった。






おお、神よ、  
私は罪深き人間で  
す。この子羊を私  
の命と引き換えに  
ささげます。

あるとき、二人の息子達が神を  
礼拝した。父親であるアダムから、  
楽園で神が、彼らの身代わりとし  
て動物達をほふられた話を聞いて  
いたアベルは、信仰によって自分  
の動物の命を神にささげた。

カインは、自分の持っている最上のものを神にささげた。しかしそれは血の犠牲を伴うものではなかった。カインの罪を神は喜ばれていないということを、彼は理解していなかった。



神よ、どうか私の出来る限りの最高の供え物をお納めください。

彼らのうちのどちらかが、約束された救い主となるのだろうか？

創世記4：1-4、ローマ人への手紙3：23、ヘブル人への手紙11：4



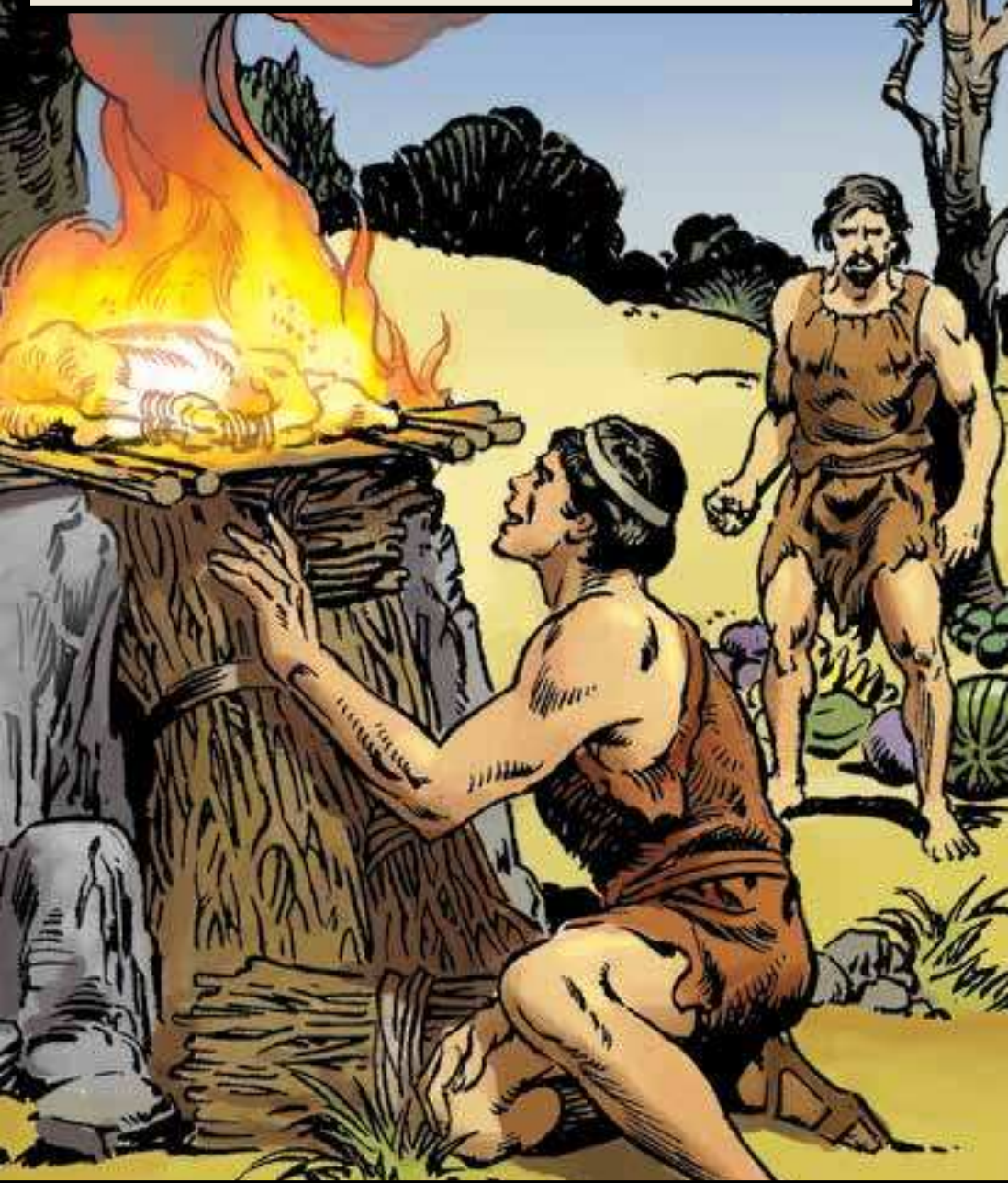
カイン、  
それらは足りない。



神はカインのささげ物には目を留められなかった。それらは血の犠牲を伴う物ではなかった。



神はアベルがささげた供物を喜ばれ、無実の子羊から流れた血を見て神はアベルの罪を取り去った。



神はカインに仰せられた。「あなたが正しくおこなうのであれば、わたしは受け入れて喜び、あなたをあなたの弟、アベルの上に立つ者とし、アベルをあなたに従属させよう。」



いったい何様の  
つもりだ？俺の育てた  
果実や野菜は、あんな  
子羊よりよほど価値が  
ある。なんでお前なん  
かがそんなに特別  
なんだ？

兄さん、  
血の犠牲をさ  
さげるための  
時間はまだ  
あるよ。





もうお前  
んかに耳をかす  
もんか!

ドブズッ

創世記4:5-8

アベルは死に、カインは  
殺人の罪を隠そうとした。



しかしカインは、自分の犯した悪事を神から隠すことはできなかった。神はすべてを見ておられ、すべてをご存知なのだ。

カイン、  
あなたの弟  
アベルは、どこ  
にいるのか？

知りません。  
私は弟の番人なの  
でしょうか。

あなたの弟の  
血がまだ土地に残っ  
ている。おまえの悪事  
を表しているのだ。



神はすべてをご存知である。すべての人を見ておられる。神の御前に隠し事はできない。神はカインがアベルにしたことを見ておられた。神はカインを呪われ、カインは妻を連れて荒野へ逃げ去った。彼の罪は彼自身に深い悲しみと苦痛をもたらした。



彼は約束された救い主  
にはなれなかった。  
彼は、自らが救われなくては  
ならない立場となった。



神が仰せられた救い主の約束はどうなったのか？アダムとエバのもとに再び男の子が生まれ、セツと名付けられた。その後、彼らは多くの息子、娘たちを生んだ。



創世記4:9-16、5:4  
使徒の働き17:24-26

セツも成長して息子をもうけ、その子もやがて息子をもった。こうして多くの子供達が生まれたが、罪の呪いを取り除き、死に打ち勝つ者となる存在はまだ現れていなかった。地上には多くの都市や村、農地ができた。





新しい世代が増えるに伴い、罪もまた増大していった。人々は性的な罪や暴力的な罪を犯した。全ての思想が罪に染まっており、誰も義と認められる者はいなかった。アダムはひとつの罪を犯した。そして人々は今、多くの罪を重ねていた。



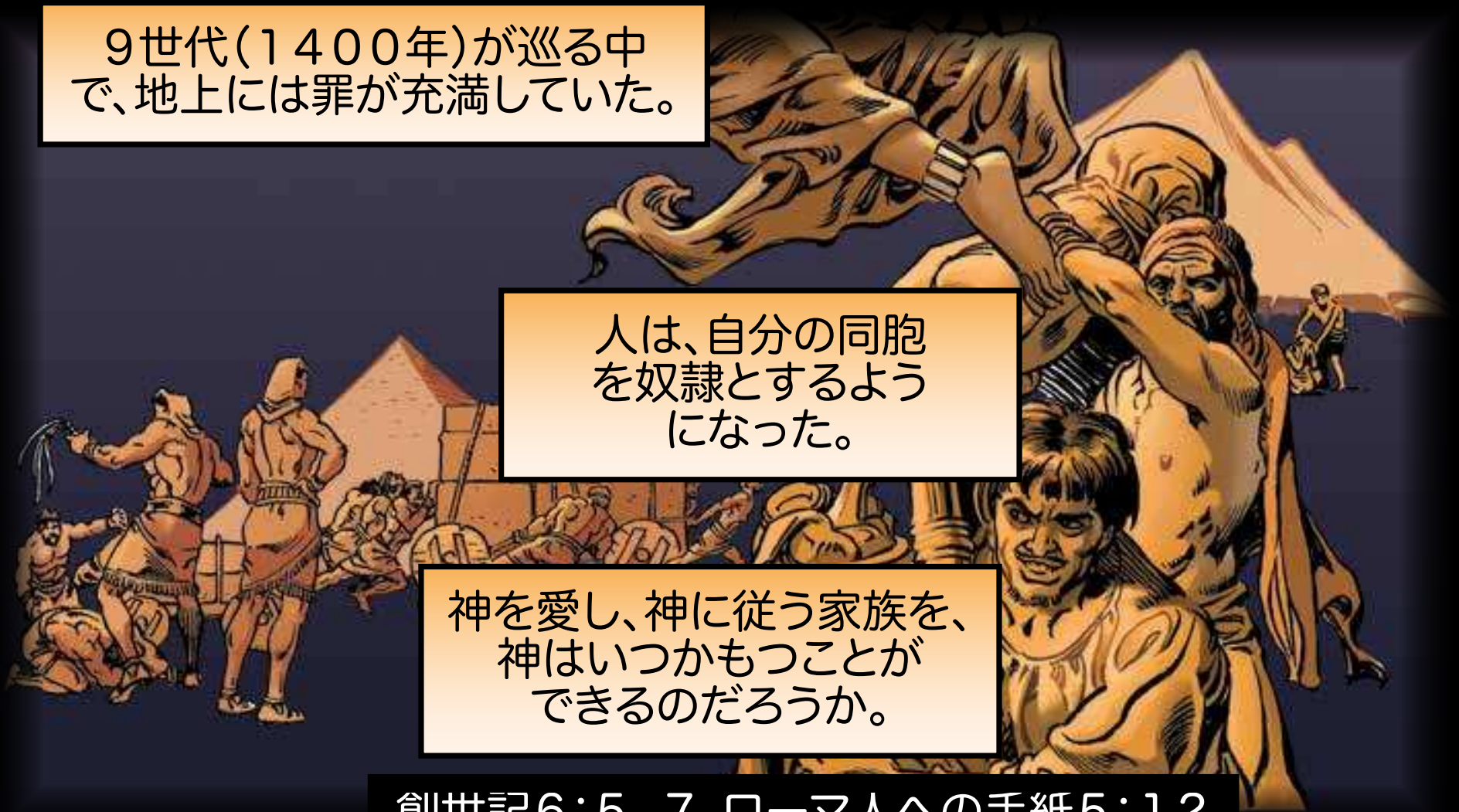
神は仰せられた。「わたしはこの地に人を造ったことを悔やむ。わたしはわたしが創造したすべてのものを地の表から消し去ろう。」  
神の御国を忌み嫌うサタンは、神がすべてを滅ぼすことを喜ぶにちがいない。

9世代(1400年)が巡る中  
で、地上には罪が充満していた。

人は、自分の同胞  
を奴隷とするよう  
になった。

神を愛し、神に従う家族を、  
神はいつかもつことが  
できるのだろうか。

創世記6:5-7、ローマ人への手紙5:12





紀元前 約2500年



しかし、ノアという男は、ただひとり正義を信じて常に正しいことをおこなっていた。神は恵みのうちに、ノアとその家族だけは滅ぼさずにいようと決断された。



ノア、わたしはこの地上  
に大洪水を起こす。いのちあ  
るものはすべて死ぬ。あなた  
とあなたの家族と動物達を  
守るために、大きな箱舟を  
造りなさい。





地上の全ての生き物  
の中からオスとメス、一つ  
がいずつ、食べることが許  
されている生き物の中から七つ  
がいずつを取り、ともに箱舟に  
乗せなさい。箱舟の造り方や洪  
水への備えについては、わたし  
があなたに教える。


ノアこそが、サタンの策略を打ち砕く約束の者なのであろうか。はたして彼は神に従うだろうか？それとも、彼もまた墮落してしまうのだろうか？



神は、地上に生息する生き物一つが少しずつ、必要な食料を積み込むためには、どれほどの大きい箱舟を造る必要があるのか、ノアに説明された。

創世記6:8-9、17-22、7:2





もう一度言う。神は大きな洪水を起こされ、地上を滅ぼされる。私の言葉を信じて、共に箱舟に乗ろうではないか。

洪水によって人々が滅びるということに、ノアは悲しみを覚えた。そこで、多くの時間を費やして、人々にその罪を悔い改めるよう警告を与え続けた。



バカな奴め。

罪が原因なのだ。  
罪を犯すのを辞め、  
正義と愛をもって隣  
人に接するんだ。


愛に満ちた  
神がなぜその子  
供達を滅ぼすっ  
ていうんだい？



120年の後、箱舟は完成した。神は世界中から動物達をノアのもとへと連れてこられた。

見てごらんよ。  
誰も導いていないのに動物達が自らやってくる。




A detailed illustration of Noah's Ark. The ark is a large wooden building with a ramp leading to a courtyard filled with various animals, including camels, sheep, and oxen. In the background, there are mountains and a sky filled with many birds flying. In the foreground, two men are standing on a rocky outcrop, looking towards the ark. One man is wearing a dark robe and a blue head covering, while the other is wearing a light-colored robe and a white head covering. A large speech bubble is positioned in the upper right, and another smaller one is in the lower right.

なんとも  
不思議な光景だね。  
こんなにも多くの動物達  
が存在していたとは。ノア  
が言うように、神が洪水  
を起こす、というのは  
本当のことなん  
だろうか。

まるで誰かの  
呼びかけに  
応えている  
かのように。





これでもうスペースはいっぱいだな。

これらが最後です。

ノア、時が来た。あなたの家族や動物達と共に箱舟に入りなさい。罪を悔い改めない者達には、もうあとわずかしか時間が残されていない。

神は箱舟の扉を閉ざされた。七日間は何事もなく過ぎた。

はっはっは、愚か者どもめが！海から何キロも離れたこんな乾いた平原にどでかい舟など造りやがって。しかもその中に動物達と閉じこもってんだぞ。

ちえ、もうライオンに食われちまってるんじゃないか。

もう一週間も閉じこもってるぞ。



しかし七日目に、雨が降りだし、さらには地中深くに貯まっていた水が地表に吹き出してきた。

こんなの、見たことがない。船の中に閉じこもった狂った奴らの言う通り、神が罪の報いに我々を殺そうとしているのだろうか？






バカなことを  
言うな。神は愛その  
ものだ。それに、ひと  
りの人間が正しくて他  
の宗教家のお偉いさん  
達が皆間違っている、  
なんてことがあるもんか。

この時まで、地上に雨が降ったことなど一度もなかった。天候は常に良く、霧が立ちこめることで地は潤されていた。雨というものを、誰ひとり見たことも聞いたこともなかったのである。雨が降るだろう、ということ、例えノアが信じなかったとしても不思議ではない。水が空から降ってくるだなんて、と人々はノアを気がふれた者として扱った。しかしノアは、ただ神が仰せられたことを信じたのである。



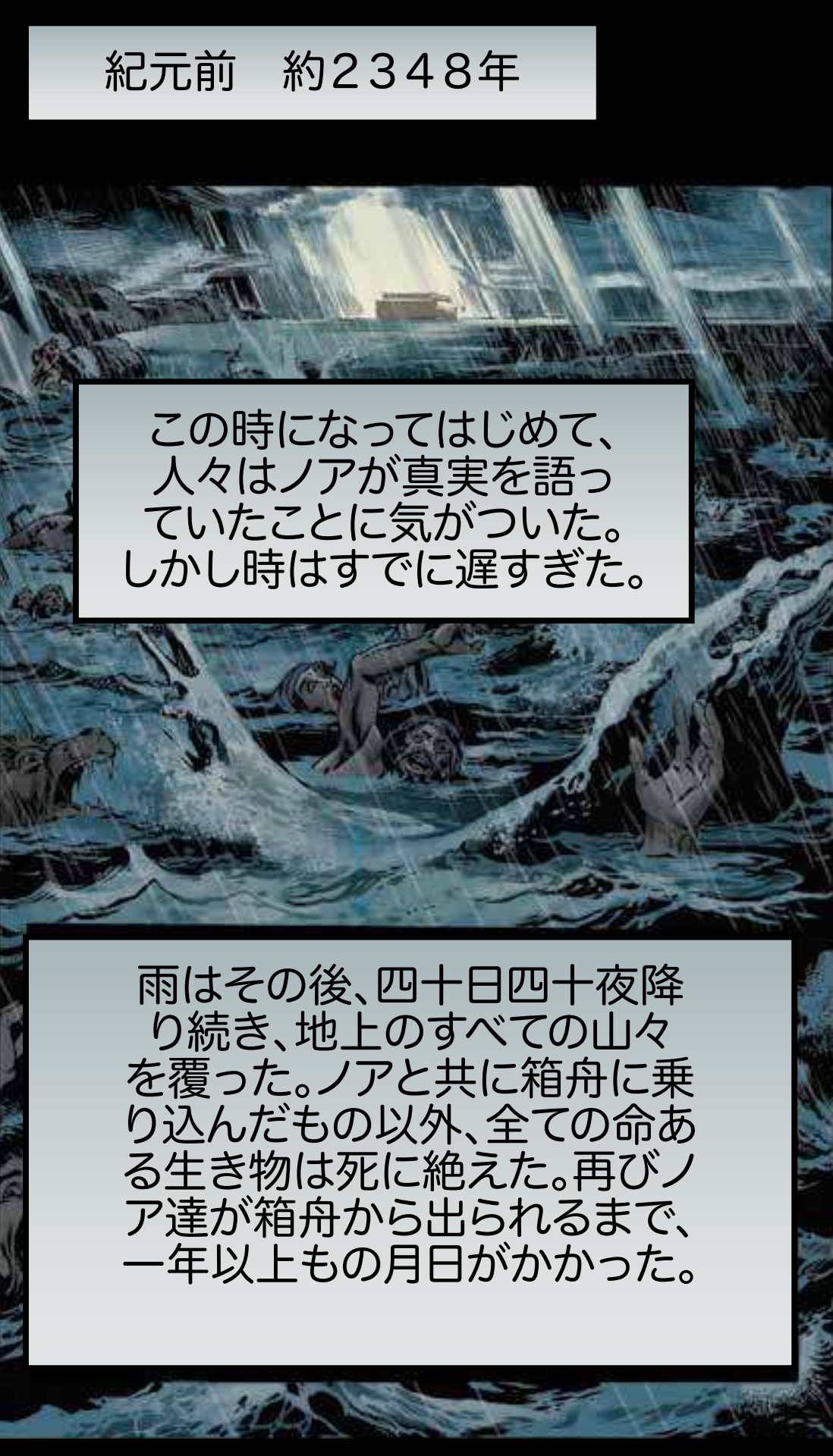


ノアの言う  
事を信じるべきだ  
った。私はなんて愚か  
だったのだろう。

神様、赤ちゃん  
を助けて!

創世記7:9-12、16

紀元前 約2348年



この時になってはじめて、  
人々はノアが真実を語っ  
ていたことに気がついた。  
しかし時はすでに遅すぎた。

雨はその後、四十日四十夜降  
り続き、地上のすべての山々  
を覆った。ノアと共に箱舟に乗  
り込んだもの以外、全ての命あ  
る生き物は死に絶えた。再びノ  
ア達が箱舟から出られるまで、  
一年以上もの月日がかかった。



ノアは、一羽の鳩を放った。やがてその鳩は、くちばしに若枝をくわえて戻ってきた。すでに地上のどこかで木々が育っている証だ。

後に、ノアが再び鳩を放すと、その鳩はもはや戻ってはこなかった。それは、鳩がどこかに住む場所を見つけたことを意味していた。



水が引いて、この箱舟から出られるようになると嬉しいのだが。



創世記7:12、19-23、8:9-12

まもなく箱舟は、アララテ山の上にとどまった。すべての生き物は箱舟の中から出てきた。罪が一掃された新しい世界へと。





ノアは祭壇を築き、神への全焼のいけにえをささげた。ノアは正しい人であったが、彼の心にも罪は存在した。血の犠牲のささげものは、罪あるノアとその家族の命と引き換えに、神にささげられたのだ。




本来ならばノアとその家も、罪のために洪水によって滅ぼされるべき存在であった。しかし、神の恵みによって彼らは生かされた。ほふられた動物達はそのことの象徴である。かつて神が楽園で、アダムとエバの身代わりとして生き物をほふり、その皮で彼らの身体を覆ったように。

わたしは空に、虹をかける  
わたしはもはや地上を洪水に  
よって滅ぼすようなことはしない。  
虹はその契約のしるしだ。生めよ。  
増えよ。地に満ちよ。





A man with long dark hair, wearing a dark, long-sleeved robe, stands with his arms outstretched, addressing a group of people. The scene is set in a landscape with a rainbow in the sky and mountains in the background. The people are seen from behind, looking towards the man. The overall style is that of a comic book illustration.

生き物すべては、  
人間を恐れるように  
しよう。生きて動い  
ているものは皆、あ  
なたがたの食物であ  
る。野菜やハーブの  
ように。しかしその  
血までも食してはな  
らない。また、人を  
殺してはならない。

もし人を殺すならば、  
その者も同じように誰かに殺される。  
人の血を流す者は、人によって、血を流  
される。命はその血の中にあるのだ。



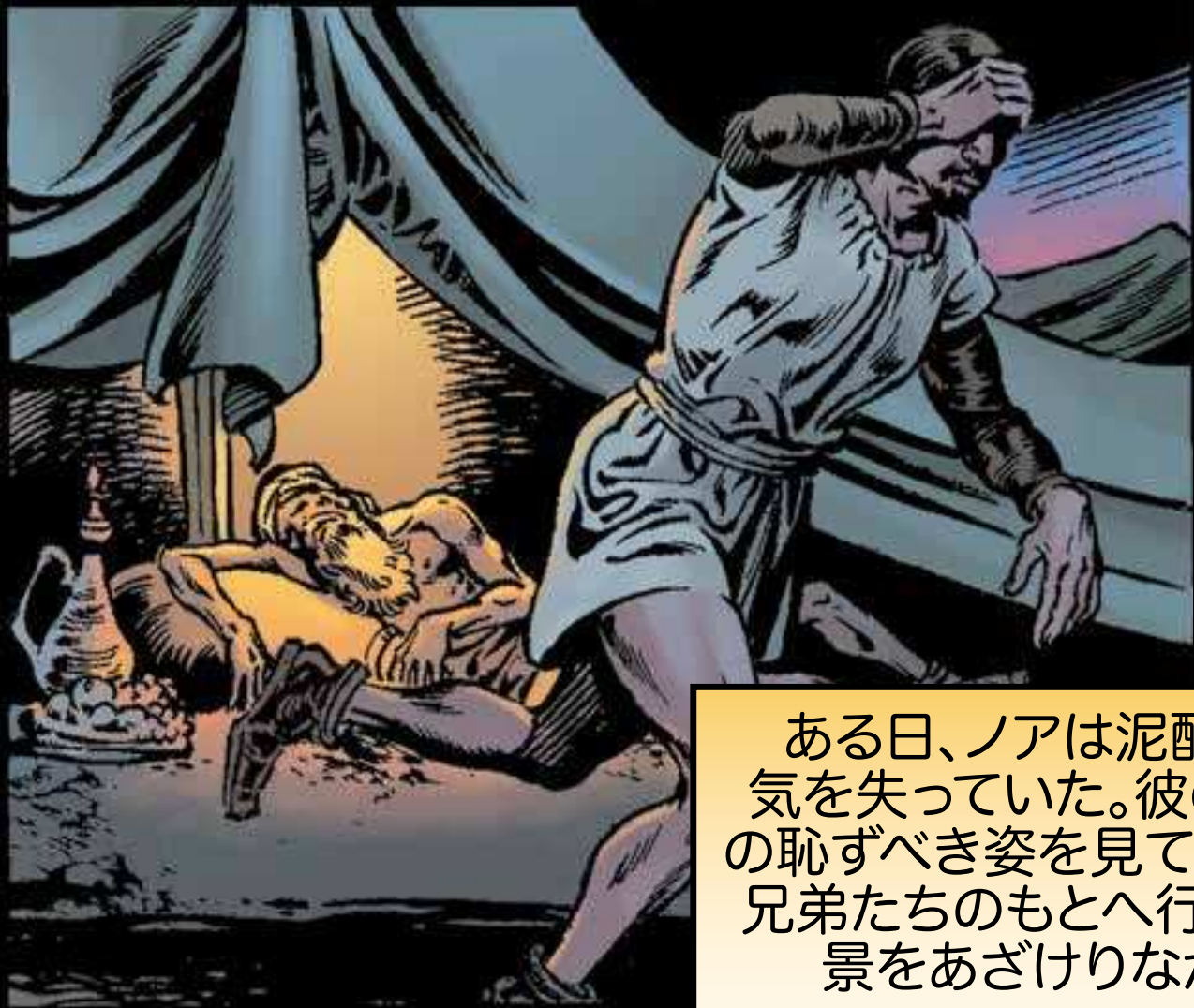
ノアは農夫となり、ぶどうを栽培した。四世帯のみではじまる新しい世界はさみしいものだったが、息子夫婦たちはそれぞれ子供を授かっていった。






創世記8:4、20、9:1-29

ノアは、果実を容器に入れて数週間おいておくと、愉快的気分になせしてくれるアルコール飲料になることを発見した。ノアはこの飲み物がたいそう気に入り、時には働けなくなってしまふほどだった。意識を失うまで飲みつづれることもあり、酔って神が喜ばれないような行動をとるようになった。



ある日、ノアは泥酔し、裸になったまま  
気を失っていた。彼の息子のハムは、父親  
の恥ずべき姿を見て愉快に思った。ハムは、  
兄弟たちのもとへ行くと、自分が今見た光  
景をあざけりながら彼らに話した。





ノアが目覚めた時に、兄弟はハムがしたことをノアに告げた。

おまえの息子、カナンとその子孫は、おまえの兄弟のセムの子孫に仕えるしもべとなる。



何年もたった後、この預言は真実となった。カナン人はパレスチナを占領して住み着いたが、やがてユダヤ人の奴隷となったのだ。

創世記9:21-27、第2歴代誌4:40、詩篇78:51、105:23、27、106:22



セツ



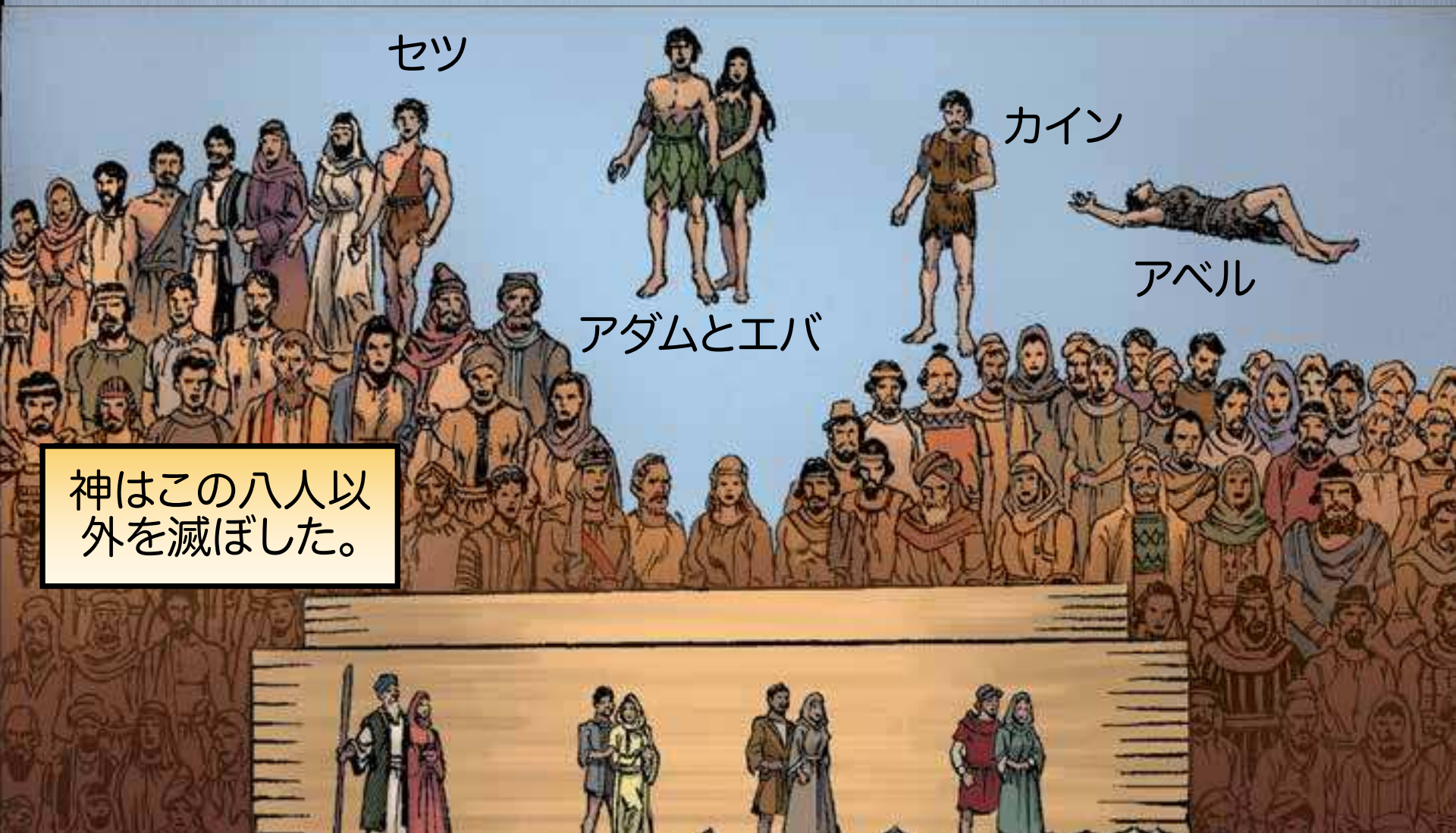
アダムとエバ

カイン

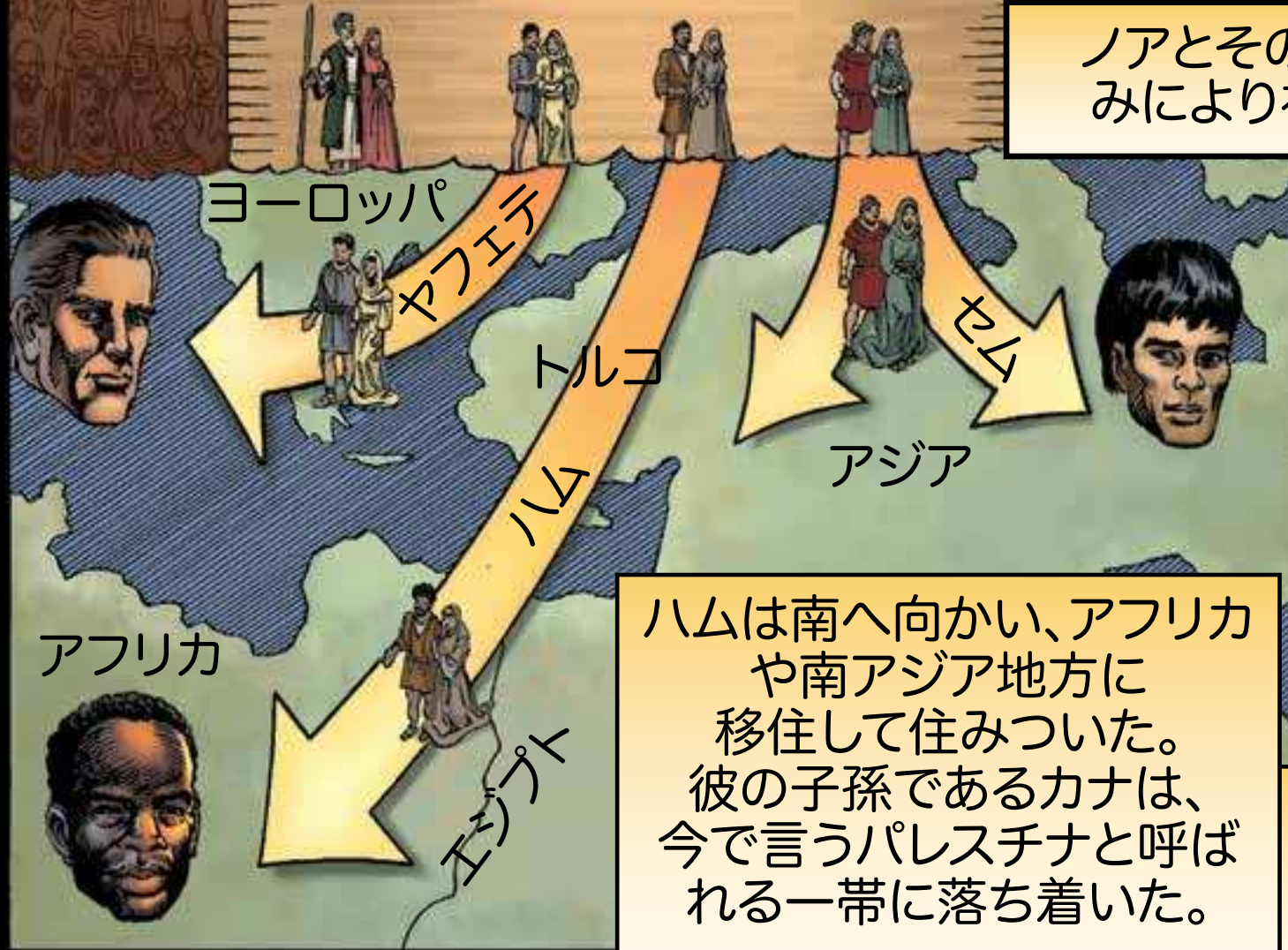


アベル

神はこの八人以外を滅ぼした。



ノアとその家族は神の恵みにより祝福を受けた。



セムは東へ向かい、アジア方面に住みついた。

ハムは南へ向かい、アフリカや南アジア地方に移住して住みついた。彼の子孫であるカナは、今で言うパレスチナと呼ばれる一帯に落ち着いた。

後に、ヤフェテは西や北へ移住し、住みついた。



紀元前 約2247年

ノアの息子、ハムに、クシュという息子が生まれ、クシュからニムロデが生まれた。ニムロデは力ある猟師となり、彼の名は世界中に知れ渡った。彼は神に従うことを拒み、自ら偽りの宗教をバビロンの地に立て上げた。



バビロンの人々は、地に広がり子孫をもうけよ、という神の命令に従うことを拒んだ。反対に彼らは、町の中心に集まると、そこに高くて立派な礼拝用の塔を建てた。







しかしその塔は、創り主  
である神を拝むためのも  
のではなかった。

地に広がるように、という神の言葉にあえて背いた人々に対して、神はお怒りになられた。そこで神は、彼らが互いに異なった言語を話すようにされた。



ይህ ዓይነት ጭንቀት  
ጸሎትና ጥሰት  
ከሁሉም የሆኑ ናቸው

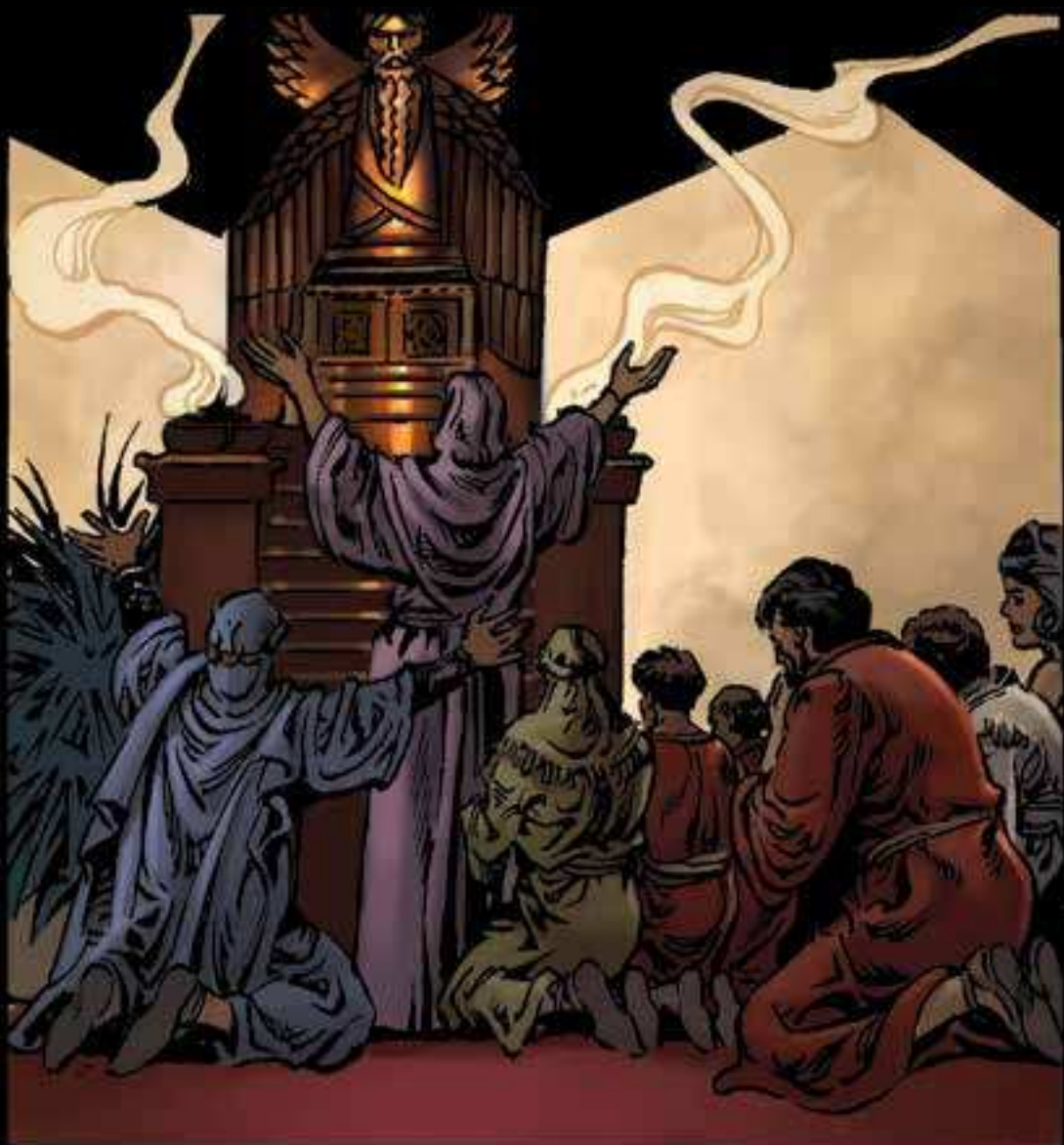
እነዚህ ሰው ለሰው  
የሚናገሩት የሆኑት  
ቋንቋዎች

もはや労働者達は互いに意思疎通をはかることができなくなり、仕事を続けることが出来なくなってしまった。





同じ言語を話す者同士が集まり、それぞれの道をたどり始めた。ある者達は遠方の地へ向かい、ある者達は船で島を目指した。また、寒い北国へ向かう者達や暑い砂漠地帯へ向かう者達もいた。こうして人々は各地へ広がっていき、神のご命令は果たされた。



地上に人間が増え始めると、  
再び罪が増大していった。  
人々は偶像を礼拝し、  
生ける神を忘れていった。

創世記10:6-10、11:1-9





<https://goodandevilbook.com/>